

2017年（平成29年度）複数年サイクル点検評価レポート【施策評価】

分野名	II-2 資源循環型社会の構築	施策No.	13	施策名	廃棄物排出量の削減
目的、内容	リデュースとリユースの推進により使用済みとなるものの発生量を削減することで、廃棄物排出量を削減する。 2020年度目標：一般廃棄物の最終処分量をさらに削減する（32万トン以下） 産業廃棄物の最終処分量をさらに削減する（37万トン以下） 大阪府循環型社会推進計画の2020年度目標：一般廃棄物排出量278万トン、産業廃棄物排出量1,534万トン				
副次的効果、外部効果等	①資源効率性の向上による、環境への負荷の低減。 ②焼却処理量の削減により、温室効果ガス排出量、ダイオキシン類排出量の削減に資する。大阪府地球温暖化対策実行計画（2015年3月策定、2020年度まで）において一般廃棄物の廃プラスチックの焼却量（2020年度21万トン）を対策指標として掲げている。				
関係法令、行政計画等	循環型社会形成推進基本法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、資源有効利用促進法、各個別リサイクル法、大阪府循環型社会形成推進条例 大阪府循環型社会推進計画（2016年6月策定、2020年度まで）				
国等の政策、社会情勢等	2013年5月、国は「第3次循環型社会形成推進基本計画」を策定。2R（リデュース・リユース）の取組がより進む社会経済システムの構築等を掲げる。				
（参考） 「講じた施策」に記載した施策事業コスト	2014年度（決算額）（千円）	2015年度（決算額）（千円）	2016年度（決算見込額）（千円）		
	0	0	0		
※各年度で「講じた施策」への掲載事業が異なることから、新規事業の有無等に関わらず、年度間でコストの増減がある。					
取組指標及び実績 （施策効果の定量評価）	名称	把握方法	実績		
	① 一般廃棄物の排出量	毎年度の一般廃棄物処理実態調査により把握。	2014年度318万トン（府民1人あたり983g/日） 2015年度315万トン（府民1人あたり970g/日） 2016年度309万トン（府民1人あたり955g/日）[速報値]		
	② 一般廃棄物の最終処分量	毎年度の一般廃棄物処理実態調査により把握。	2014年度39万トン 2015年度38万トン 2016年度36万トン[速報値]		
	③ 産業廃棄物の排出量	産業廃棄物処理実態調査により把握。直近は2014年度（概ね5年ごとに実施）。	2010年度1,450万トン、2014年度1,518万トン		
	④ 産業廃棄物の最終処分量	同上	2010年度47万トン、2014年度38万トン		
工程表の進捗状況 [生産流通]	工程名	進捗状況※	主な事業の名称	事業の実施状況	
	再生原料・間伐材等の利用促進				
	生産工程における廃棄物発生原単位の抑制（多量排出者制度の活用）	☆☆	多量排出事業者制度の推進	多量排出事業者の廃棄物処理計画、実施状況報告書の提出を指導。排出抑制の取組みを計画し、実績を公開。 府所管域計画策定事業者数（工場・事業場）：のべ186事業所（2016年度）	
	建設工事における廃棄物発生抑制	☆☆	多量排出事業者制度の推進	同上 府所管域計画策定事業者数：延べ141事業者（2016年度）	
	流通段階での排出削減	☆☆	府内市町村の「エコショップ制度」の周知啓発	各市町村事業として取組んでいる制度をホームページで周知	
	レジ袋の削減	☆	循環型社会推進計画の推進	毎年10月の「3R推進月間」に、「環境にやさしい買い物キャンペーン」を実施し、キャンペーン参加店舗では、レジ袋削減、簡易包装の推奨などの取組を実施	
	製造業者による取組の促進	☆	循環型社会推進計画の推進	「おおさかりサイクル情報」のホームページで、製造業者の取組を促進	
	[消費]	3Rの徹底			
	レジ袋の削減	☆☆	環境にやさしい買い物キャンペーン	毎年10月の「3R推進月間」に、レジ袋削減、簡易包装を推進する「環境にやさしい買い物キャンペーン」を実施。 店舗参加数：2014年度4,548店舗、2015年度4,442店舗、2016年度4,320店舗	
	中古住宅流通・リフォーム市場の拡大	☆☆	大阪府住宅リフォームマイスター制度	住宅建築関係団体等との協働で、住宅リフォームに関するアドバイスや、一定の基準を満たす住宅リフォーム関係事業者の情報提供などを実施	
※進捗状況：☆☆☆計画以上の進捗／☆☆計画どおり／☆計画以下の進捗／△計画とは異なる事業内容で進捗					
評価	評価	理由等			
	施策目的の達成状況	一般廃棄物、産業廃棄物とも順調に進捗している	一般廃棄物の取組指標①は、2014年度318万トン、2015年度315万トン、2016年度309万トンであり、減少している（大阪府循環型社会推進計画の2020年度目標は278万トン）。 取組指標②は、2014年度39万トン、2015年度38万トン、2016年度36万トンであり、減少している（大阪府循環型社会推進計画の2020年度目標は32万トン）。 産業廃棄物の取組指標③の最新の実績（2014年度）はその前の実績（2010年度）と比べほぼ同じで、取組指標④の最新の実績（2014年度38万トン）はその前の実績値と比較して大きく改善している。		
事業・工程の進捗状況	概ね想定どおり	進捗状況については、一部計画以下の箇所が見受けられるものの、概ね計画とおり。			

計画見直し又は改善事項		見直し・改善点の有無	見直し・改善点の内容等
	目標	無	
	施策の方向・主な施策	有	「資源循環型社会の構築」分野以外である食品流通段階での取組み、食品としての有効活用などの食品ロス削減対策について、環境総合計画への位置付けを今後検討
	工程表	有	
その他の改善事項	無		
関係課室	循環型社会推進室、環境管理室、住宅まちづくり部、環境農林水産総務課		

環境総合計画部会委員による点検（所見）	点検評価手法の適正さについて	評価結果について	計画の見直し又は改善方針について
	おおむね妥当と判断いたしますが、「目的、内容」欄に記載の通り、2020年度の達成目標として、一般廃棄物の最終処分量を設定しているのであれば、この指標を「取組み指標」として取り上げるべきではないでしょうか？※修正対応済（事務局）	おおむね妥当と判断いたしますが、2014年～2016年の評価であるにもかかわらず、進捗状況の実績欄で、各年の数値が明示されていない項目があります。可能な限り、定量的な数値を記載いただくように希望します。※修正対応済（事務局）	見直し・改善点として記載されている、「資源循環型社会の構築分野外の食品ロス削減の取組」との表現が不明確でわかりにくいです。わかりやすい表現を希望します。※修正対応済（事務局）